

令和4年度 岡山県高梁市立宇治高等学校 学校評価書

評価 (A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標	担当	具体的計画	達成基準	自己評価(中間)	評価	自己評価(最終)	
						達成状況	評価
1基礎学力の定着 ①ICTを活用した教育の推進、基礎学力の定着 ②アクティブラーニング型授業の推進	教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇治高スタンダード」を意識した授業を行うとともに観点別評価の研究を深める。 ・生活時間調査を年間5回実施し、生徒の授業外学習を把握し、増加のための取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートにおいて、「授業内容が理解できている」にそう思うと回答する生徒が60%以上である。(R3年度は1回目60%、2回目67%) ・学期末評価テスト前1週間の家庭学習時間が1日平均1時間以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業アンケートにおいて、「授業内容が理解しやすい」と回答した生徒は54.0%(肯定的な回答は91.1%)であった。今後も多様な生徒へ対応する授業の研究をさらに進めていきたい。 ・6月の生活時間調査では、全学年平均学習時間が1日1時間を超えており、評価テストへの学習意欲向上が見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回授業アンケートにおいて、「授業内容が理解しやすい」と回答する生徒が68.6%(肯定的な回答は95.1%)となっており、宇治高スタンダードでの共有事項や各教科の工夫の効果がみられる。 ・12月の生活時間調査では、1年生は平均学習時間の目標を超えたが、2、3年生はわずかながら届かなかった。学習意欲や家庭学習習慣に課題がある。 	B
	3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での提出物や課題をおろそかにせず日々取り組ませて、文章を読む力や語彙力の向上を図る。 ・生徒との面談を通して、一人ひとりに必要な学習内容を決めてから取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章で表現したり、口頭で伝えることができるようになる。 ・基礎学力が向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況は概ね良好である。期限に間に合わない場合も白板に示したり、声かけを行い合うことで提出はできている。 ・進路指導などで実施している面接練習などを通じて、表現のための語彙力は向上している様子が見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出は習慣化できており、遅れている生徒にも互いに声かけを行い、取り組み状況は良い。 ・授業でのグループワークは活発で学習に向かう姿勢は集団としても良い。国語の作文などを通じて、自身の考えをまとめて発信する力の向上が見られる。 	A
	2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・終礼後に自習の時間を設け、提出物の確認や学習の振り返りをさせて自主学習の定着をはかる。 ・課題の締め切りを意識させ、早めに行動できるように声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員が1時間以上家庭学習をおこなっている。 ・授業課題、長期休業課題、新聞課題などの提出日を守ることができる。 ・googleにログインできる状態を保つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価テスト前でも毎日1時間の学習が難しい生徒が多い。進路実現に向けて家庭学習の定着をはかるようにしていきたい。 ・課題の提出については概ねできている。提出期限を厳守することについては継続して個別に指導していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する意識は常にあり、提出することはできているが、課題だけを済ませることにとどまり自主学習の習慣化はできていない。 ・課題の提出期限は概ね守ることができていた。個別の指導は今後も続けていきたい。 	B
	1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・終礼後に自習の時間を設ける。 ・ペアやグループワークを円滑に行うため協調的な人間関係構築を促す取り組みを行う。 ・クラス活動においてICTを活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外で自習を行うことが習慣化する。 ・ペアやグループワークで主体的に参加することができる。 ・課題の締め切り日や連絡事項などについてICTを用いて確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外で自習を行うことが習慣化し始めている。 ・ペアやグループワークで主体的に参加することができるようになってきている。 ・課題の締め切り日や連絡事項などについてICTを用いて確認することができる。欠席時に課題をネット上で配布して取り組ませるなどできている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外で自習を行うことが習慣化できている生徒が増えている。 ・ペアやグループワークで主体的に参加することができる。 ・課題の締め切り日や連絡事項などをCTを用いて確認することについては、徹底できていない。 	B
2進路指導の充実 ①3年間を見通したキャリア教育の推進 ②組織的な校内支援体制の充実	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己実現に向けて、さまざまな自己発見の場の提供を図るため、各学年の目標を「自己理解」「将来設計」「目標決定と実現」と設定し、3年間を見通した系統的な進路指導を行う。 ・1、2年生にはキャリアパスポートを作成することで進路LHR(年3回)だけでなく、「自己理解」「将来設計」について考える機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケート(保護者用)⑤「学校は就職や進学での進路実現に向けて適切に指導している」と回答する割合が引き続き90%を超える。 ・さん太新聞を使った「新聞学習」を定着させる。(月曜日に提出できる生徒が80%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さん太新聞を使った「新聞学習」が定着している。(月曜日に提出できる生徒が85%)しかし、内容への理解が不十分のため再提出が多い。再提出の割合を下げるよう指導を行うことが課題である。 ・每学期キャリアパスを記入させ、今までの振り返りをさせるとともに、進路選択の参考になるように指導している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケート(保護者用)⑤「学校は就職や進学での進路実現に向けて適切に指導している」と回答する割合が90%を超え、94.7%であった。 ・さん太新聞を使った「新聞学習」を定着させることができている。(月曜日に提出できる生徒が90%以上になっている)また、個別最適化された学びとなるよう課題を個別に変えるよう試行錯誤している。 	B
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒が、最も良い形で次のステップに進めるよう障がい者就業・生活支援センターやハローワーク・就労支援コーディネーターなどと連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より実施できていなかった、卒業生の進路先を5月中旬に訪問し、様子を伺う。 ・生徒保護者が安心して進路を決定できるよう、障がい者就業・生活支援センターやハローワーク・就労支援コーディネーターなどと連携していく。 ・卒業後の進路先でも支援を得られるよう外部機関と連携を行う。そのために、学内で生徒と外部機関が顔合わせなどを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の進路先を訪問し、様子を確認している。問題なく就職できていることがわかった。 ・3年生の進路指導(特別枠就職)について、障がい者就業・生活支援センターやハローワーク・就労支援コーディネーターなどと連携している。 ・特別枠や吉備リハなどの指導についてマニュアルを作成して次年度、どの教員でも指導できるよう体制を整えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より実施できていなかった、卒業生の進路先を5月中旬に訪問し、様子を伺うことができた。 ・進路を決定することができた。障がい者就業・生活支援センターやハローワーク・就労支援コーディネーターなどと連携するため移行支援会議を実施し、卒業後の支援体制を構築している。 	A
	校内支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に行われる2回の生徒情報交換会では非常勤の先生方にもご案内し、できるだけ出席いただく。またssw、たかはし発達障害者支援センターなど外部機関からもご出席いただきアドバイスをお願いする。 ・指導記録について、毎月閲覧確認の回覧することで非常勤も含め、全教員で共有する。全職員が生徒の実態把握に努め、情報を共有することで予防的指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間欠席日数が30日以上の子が20%以下になる。(R3年度は該当者なし) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3日以上連続して欠席する生徒はいない。また、継続して外部機関へ面談等をお願いしている生徒も現在はなく、落ち着いている。定期的なスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの情報交換や面談を行い、幅広く指導記録による情報の共有もできている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はケース会議を開くことはなかったが、外部機関と連携しながら対応できるよう心がけた。また担任団やスクールカウンセラーの面談が、問題を抱えた生徒を救うきっかけになっている。そのため、中学校では欠席日数が多かった生徒についても、連続した欠席とならず学校生活が送れている。遅刻、欠席しがちな生徒については、引き続きsswやたかはし発達障害者支援センターのサポートを受けながら支援していく必要がある。 ・1/20日現在で欠席日数が30日以上の子はいない。 ・指導記録の確認依頼が2学期以降できていない。 	B

	校内支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・6月までに全学年の「個別支援計画」を作成し、職員で情報共有する。 ・進路指導課や生徒課の会議の中で支援が必要な生徒の見極めを行い、早めに必要な外部機関につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケート(教職員用)⑧「支援を必要とする生徒の進路指導体制」に関する項目で、「4」の評価が80%以上になるようにする。(R3は68%) ・個別の支援計画が生徒の進路先へ必要に応じて渡すことができる状態になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画の内容について、中学校や保護者からいただいた情報の記載は完了している。職員が確認できるように保管や情報共有の方法について検討しているところである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画の様式や活用方法の見直しに向けて研修会に参加する予定である。 ・学校自己評価アンケート(教職員用)⑧「支援を必要とする生徒の進路指導体制」に関する項目で、「4」と「3」の評価を合わせると94.5%であった。肯定的評価は昨年度より下がったが、進路先が多岐にわたり該当機関との打ち合わせは進路指導課でしっかり行われている。 	B	
	3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関と連携を密に図り、生徒に合った進路を実現できるようにする。 ・部活動春季大会後から、放課後の時間を進学・就職に向けた出願準備や面接練習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員が自分に合った進路を選択し、実現をすることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談を重ね、保護者との連絡も密に取ることで希望する進路選択ができ、本人たちも納得している状態である。また、希望している進路先以外のパターンも各々が想定できている。進路希望に沿った課題も担任団で相談して個別の支援はできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者、就職希望者ともに自身が望んだ進路先を決定することができた。また、進路決未定者も保護者と本人と面談を重ねながら進路選択に前向きな姿勢が保たれている。3年生になって希望先が変更する生徒も多数いたが、担任や進路指導課と連携し、生徒への適切に情報を提供し、相談を重ねることができた。 	A	
学校経営目標	担当	具体的計画	達成基準	自己評価(中間)	自己評価(最終)		
					評価	達成状況	
3豊かな人間性の育成 ①生徒の主体的な活動・ボランティア活動の推進 ②基本的な生活習慣の確立(スマホの適切な利用) ③レジリエンスの育成・強化	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事を生徒が主体的に企画・運営できるよう、準備期間や準備内容を視覚化する。 ・ケータイ・スマホ指導や保護者向けの便りを定期的に発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が計画性をもって主体的に活動に取り組むことができる。 ・全生徒がケータイやスマホを時間やきまりを守って適切に利用することができる。 ・ケータイやスマホに関するトラブルが0件になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一学期は教員が行事ごとにすべきことの指示を与え、生徒はその指示のもと動いた。今後は、行事の本番から逆算して、しなければならぬことを生徒が計画できるよう指導していく。 ・一部の生徒のケータイ及びスマホの利用時間が多くなっている。始業式ごとに利用時間を把握させ、クラスメイトと共有し、対策を生徒に考えさせている。今後は継続的な指導をしていきたい。 ・現在ケータイやスマホに関する大きなトラブルは確認されていない。今後も未然防止のため、SHRなどのスマホ指導などに力を入れていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して情報共有し、生徒が校外でも作業ができるようにした。Classroomに行事とそれに伴う準備の締切期日を明記し、期限を意識しながら取り組めるよう指導し、生徒主体で行事を運営することができた。 ・始業式ごとに利用時間を把握させることで、自身で利用時間が多くなる原因や減らす方法を考え、クラスメイトと共有し、他者の意見を聞くことでさらなる気づきを得ることができている。生徒間のスマホに関するトラブルはないが、校内での無許可使用による校則違反で指導を行った(2件)。来年度はそのようなことがないように、普段から繰り返し注意喚起をおこなっていく。 	B
	2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニングや行事等で1年生のサポートをさせることで、先輩としての自覚を高める。 ・生活実態調査やアンケートを実施し、それを面談で活用することで生活習慣について見直す機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動などで困っている1年生をサポートできる。 ・自己肯定感を持つとともに、他者のことを考えた行動や発言を行うことができる。 ・基本的な生活習慣と自身の生活を比較し、課題や目標を設定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で1年生への声かけが適切にできている。 ・授業や行事の振り返りでは、反省や課題を見つけることはできるが、その反省を次の活動へ活かせていないことが多い。適切な声かけをしていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に入っている生徒は、リーダーとしての自覚を持ち始め、今年の活動について意欲的に活動しようとしている。 ・衝動的に行動してしまう生徒が多いため、その都度、反省や振り返りを忘れないよう定期的な声かけや面談を心がけて行っていく必要がある。 ・冬季に体調崩す生徒が多い。睡眠時間や生活のリズムについても引き続き面談等をおとして話していきたい。 	B
	3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・最上級生として、下級生の手本となる言動・行動ができるようにする。 ・物産まつり等地域の行事において積極的に地域の方々に関わり、地域に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークなどで下級生に気を配りながら司会などの役割を果たせる。 ・物産まつり等で率先して販売やボランティア活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で取り組む授業では、発表やファシリテーションを意欲的に行うことができている。また、作業などでも率先して取り組む姿や責任感がある言動も増えてきた。今後は後輩を指導する機会を増やし、さらなる成長を促したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・最上級生であることの自覚も保たれ、全学年での授業や行事では後輩はもちろん、級友同士で助け合う場面もあった。 ・面談やアンケートからも級友同士のトラブルも減り、生活習慣(起床・就寝・スマートフォンの利用状況)の改善が見られた。 	B

4健康・安全教育の推進と環境整備 ①健康・安全意識の高揚、心安らぐ明るい学校環境づくり ②業務の効率化による教職員の心身の健康維持(働き方改革)	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの長時間の使用が健康に与える影響について学習する機会を設け、使用の仕方の改善を図る。 ・自分の健康状態について関心を持たせ、生活習慣や健康面の管理を自分で行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・ネットの依存度、使用状況について自分の実態を客観的に知ることができる。 ・健康づくりについて学習したことを実践し、自分の体調の変化、心の不調に気づき、適切に対処することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・ネットの使用状況について、安全にSNSを利用することや、相手を不安にさせたり傷つけたりするような書き込みをしないよう繰り返し学習する機会が必要と考えられる場面があった。1年生は新たにスマホを所持するようになった生徒もいるため、定期的に使用状況や使用時間について確認していく必要がある。 ・健康づくりについて不調を感じたときの休み方や学校での対応について、保護者や外部機関と連携をとりながら様子を見ている。2学期では、不安を解消するために自分で何ができるか考えられるよう支援していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット依存チェックシートを用いて毎学期始業式のHRの時間に依存状況を確認している。また、生活実態調査も合わせ、特に使用状況が心配な生徒は担任と面談を行ったり、保護者懇談時に資料を見てもらい、家庭での指導を依頼するなどし、改善に向けて協力を仰いだ。 ・不安を感じやすく体調不良を起こす生徒が多く見られた。どのような状況で不安を感じたり、休む必要があるのか自分で認識できるよう支援が必要で、担任の先生やSOをはじめ、様々な先生方が関わることができるよう情報を共有している。 	B	B
	教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・起案文書や通知文書の管理場所を決め、確認や引き継ぎをしやすい環境を作る。 ・shareやGsuiteのデータも整理と情報管理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室のロッカーが整理されている。 ・書類の保存年限を確認し、必要のない物については処分されている。 ・学期ごとにshareのバックアップをするとともに個人情報管理の啓発を行う。 ・classroom使用における教員、生徒と情報モラルを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NASのデータをブルーレイディスクに定期的に保存しているが、7月にNASの故障があり、従来のバックアップでは対応に課題もあるため、自動バックアップする形を採用した。 ・新しい職員室になり、保存文書の保管はできているが、場所の周知を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務ロッカーをはじめとする職員室の整備を定期的に行い、整理整頓を啓発できた。また、中間評価でもふれたNASのバックアップ体制も整備でき、働きやすい環境づくりに尽力した。今後も高梁市のICT支援員の方々に相談しながら機密文書などの適正な保管を心がけた。 ・classroom使用における教員、生徒のトラブルもなく、ICTの使用に関する研修も実施することができた。 	C	B
	管理職	<ul style="list-style-type: none"> ・小高教員間で連携し、生徒・教職員ともに安心・安全な教育環境をつくる。 ・出退勤入力システムを効果的に活用し、勤務状況を可視化して把握するとともに、1か月に2回程度の定時退校日を設定する。 ・業務の精選と同僚性の構築により「ワークライフバランス」力を高め、心身の健康を維持できるよう推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や期限(提出、報告期限1週間前には完了を目標)を意識した働き方ができる。 ・自己の勤務状態を客観的に把握し、超過勤務を1か月45時間、年間360時間以下とする。 ・一人で仕事を抱え込まず、声を掛け合える職場環境をつくることで、困った時に援助希求ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね時間や期限(提出、報告期限1週間前には完了を目標)を意識した働き方ができている。早めの着手、提出前の見直し等、確実に業務に当たることができるようなゆとりを意識するよう、継続して教職員に声をかけていく。 ・超過勤務の減少に向け、退勤時に声をかけたり、積極的な年休取得の推進を行ったりして超過勤務を1か月45時間、年間360時間以下としていく。超過勤務は昨年度より減少傾向である。 ・一人で仕事を抱え込まず、声を掛け合える職場環境をつくることで、困った時に援助希求ができるような雰囲気づくりを継続して行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理を行いながら、業務にあたることでできている。教員数が少なく、一人ひとりが多くの業務を抱えているため、業務が重なる時期間近の対応になることもあるが、他の教員が助けながら協力的に業務を行っている。来年度も引き続き「業務の平準化と精選」を課題としていきたい。 ・今年度、連続月での超過勤務該当者はいなかった。帰宅時に教員間で早めの帰宅を促しながら退勤したり、教員間で調整しつつ積極的に年休が取得できた成果であり、日々の生活の質の向上にも寄与していると考えている。 	B	B
	1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・生活振り返りアンケート等を用いて、規則正しい生活になるよう指導する。 ・面談を通し、生活習慣と体調の関係について理解できる支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日、休日ともに早寝早起きの習慣が身につく。 ・自分の生活習慣について、良い点・改善点に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きなど生活習慣を整えることの意義について面談を通して説明している。少しずつ習慣を意識している生徒が出てきた。 ・自分の心身の状態を客観的に把握することが次第にできるようになってきている。その体調と生活習慣の関係について、理解できるよう指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日、休日ともに早寝早起きの習慣を意識するようになってきている。月の目標の中にも多くの生徒が掲げるようになってきている。自分の生活習慣について、良い点・改善点に気づくことができる。 ・自分の心身の状態を把握し、他者に伝えることができるようになってきている。 	B	B
5地域や関係機関との連携強化 ①コミュニティスクールの効果的な運営 ②地域・関係機関との連携の推進	管理職	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの効果的な運営について研究し、学校・家庭・地域が連携した学校づくりを推進する。 ・「宇治高校魅力化プロジェクト」において、時期・内容等、効果的な広報活動を展開しつつ、令和5年度入学生の受け入れ体制を整える。プロジェクトを通じて高梁市教委・宇治町・学校が「町づくり」及び「学校の活性化」において協働する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関連した研修を年1回程度計画し実施することで、宇治地域の活性化に繋げる。 ・下宿整備において、他校への下宿視察、下宿説明会の開催、下宿体験等の実施、委員との意見交換を通じて、下宿運営を具現化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関連した研修を2学期に実施できるよう計画する。 ・下宿説明会及び体験会を実施し、参加者から説明の分かりやすさ、地域の方の丁寧な支援等に対する肯定的な感想を聞くことができた。また、下宿管理運営委員の方から下宿運営や課題が具体的にイメージできたとの感想があった。新型コロナウイルス感染拡大のため県外視察は延期となったが、時期を鑑みて計画していく。今後も委員と協議を行い、来年度の下宿利用者獲得に向け、今後もPRしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修は実施できなかったが、学校運営協議会や下宿管理運営委員会で、委員や地域の方、保護者との情報交換において学校に期待することをすることができた。来年度も本校と宇治地域をつないだ魅力づくりの参考にしていきたい。 ・来年度の下宿利用申請が2名あり、下宿事業を地域と継続して取り組んできた成果であると考えている。受入に向け、3月末までに2回の会議を実施する予定である。来年度の課題は、①下宿生その保護者、宇治親等のコメントを多く広報し、宇治での生活がより具体的に伝わるよう工夫していく、②下宿生が安心して宇治地域で生活しながら学ぶことができるよう、学校と地域の連絡や生徒の困りごと等への対応を円滑に進めていくことである。 	B	A
	教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用し、本校の取り組みを地域に発信する。 ・地域学習の一環として、フィールドワークを行い、外部機関との関わり方や活用について研究する。 ・小学校との情報共有を図り、連携できることを探していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに担当でブログを更新し、頻度を月3回以上に保つとともに保護者への情報発信にも活用する。 ・各教科で外部機関との関わり方や外部講師の活用を検討・実施する。(総合的な探究の時間、地歴公民、理科、保健体育、家庭科等) ・キャリアなど従来から小学校と協働できていることは継続しつつ、新しい取り組みも考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新ホームページとなり、写真を効果的に使うことでPR効力を高めた。また、ブログも係を決め、定期的に更新できている。 ・小学校とは音楽室や多目的ホールの使用状況などで年間の計画を共有できている。 ・生物やキャリアを中心に小学生と共同で取り組める授業も実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新ホームページとなり、ブログの更新方法も変更されたが、各行事に対して、各担当教員がアップデートできている。情報発信の頻度も月3回以上を保てた。 ・小学校とは機会がある毎に協力できている。文化祭でも互いに協力し合い、高校生も自尊感情をあげたようにも感じる。教員同士もICTを活用し、頻りに連絡・情報共有できている。 ・地域との関わりがある行事は引き続き実施できている。 	A	A